

令和4年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における天下茶屋省学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和4年4月から令和4年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学校部第5学年の原則として全児童
- ・天下茶屋小学校では、5年生 32名

3 調査内容

- ・児童に対する調査
 - ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。
[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ
 - イ 質問紙調査
運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）を実施する。

令和4年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

天下茶屋小	学校	児童数	32
-------	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	19.43	19.86	32.93	26.86	30.71	9.73	139.64	15.83	45.92
大阪市	16.11	18.44	33.14	38.26	42.95	9.59	148.22	20.07	50.83
全国	16.21	18.86	33.97	40.36	45.92	9.53	150.83	20.31	52.28
女子	17.67	18.11	40.33	28.61	26.94	9.59	137.28	10.78	50.17
大阪市	16.01	17.55	38.00	36.50	34.13	9.76	140.76	12.77	52.65
全国	16.10	17.97	38.18	38.66	36.97	9.70	144.55	13.17	54.31

結果の概要

男子は握力・上体起こし以外の7項目で大阪市や全国の平均を下回り、女子は4項目は上回ったが反復横跳び・20Mシャトルラン・立ち幅跳び・ソフトボール投げが下回った結果になった。体力合計点では、全国比は昨年度男子0.92、女子0.85が今年度男子0.88、女子0.92と男女が逆転している。質問項目の「運動やスポーツをすることは好きですか」では男子100%、女子94.8%で男女とも非常に体育の授業、運動やスポーツに好意的かつ積極的ではあるが、学校以外ではスポーツをする機会や時間は少なく、ゲームやスマホなどの画面を見る時間が多く、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は大阪市や全国と比べて多いという現状もある。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

今年度は、「なわとび週間」を1学期と3学期の2回に増やし、種目に大繩大会も取り入れた。また2学期には「かけあし週間」でインターバル走の取り組みも行い、子どもたちも意欲的に取り組んでくれた。体育の種目にも工夫し、タックラグビーなど競技性の高い種目を取り入れ、子どもたちも積極的に取り組んでいる。3年間のコロナ禍ではあったが、感染対策も緩和され、体育や休み時間また屋外の活動ではマスクを外して走り回る児童が増えた。ただ遊び場所や地域のスポーツクラブは少なく、スマホやゲームの遊びが主流なので、来年度はコロナ前の体育的行事や地域の体験活動も再開を予定している。また学校の研究教科として「体育科」を検討しており、体育の授業だけでなく、普段の生活の中でスポーツや運動の機会、時間を増やしていくたい。